

学位論文審査の結果の要旨（課程を経ない者）

学位論文審査申請者氏名	稲富 佳洋
学位論文名	変更前 植物指標種を利用したニホンジカ生息密度の低下に伴う森林植生への影響評価に関する研究 変更後 指標種を利用したニホンジカ生息密度の低下に伴う森林植生への影響評価に関する研究

学位論文審査終了年月日	学位論文審査の結果
令和4年12月27日	合格 不合格

学位論文審査の結果の要旨は次ページ以降（別紙記載要領により作成のこと。）		
学位 論文 審査 委員	主査(自署) 宇野 裕之	副査 大久保 達弘
	小池 伸介	吉川 正人
	佐藤 達雄	

※予備審査を受けた学位論文の受理決定日		令和4年11月14日
学位論文審査申請受付日	令和4年11月22日	※予備審査委員氏名 宇野 裕之 大久保 達弘
学位論文審査委員の選出	令和4年11月14日	
学位授与の可否の議決（可・否）	令和5年3月1日	

学位論文審査の結果の要旨

稲富佳洋

本研究は、ニホンジカ生息密度の低下に伴う植生変化のプロセスを明らかにし、ニホンジカ管理のための指標となる植物種（以下「指標種」）の利用方法を提案することを目的としている。シカ類の生息密度が低下した場合、まず被食圧を示す特性（食痕率など）、次に形態的な特性（植物高など）、そして個体群レベルの特性（個体密度や開花率など）が変化すること、生息密度の時間的・空間的変異に対して敏感に対応する指標種を明らかにすることができた。さらに、指標種の選定基準を明示することによって、対策の効果や管理目標の達成状況を評価する手法を提案することができた。これらの知見は、わが国におけるニホンジカ管理による生態系の維持回復をはかっていく上で、科学的基盤を提供する重要な成果である。なお、学位論文審査会において、論文名の一部を修正すべきという意見が審査委員から出され、論文名を「指標種を利用したニホンジカ生息密度の低下に伴う森林植生への影響評価に関する研究」に変更することとした。

以上のように、本論文は多くの新しい知見を有すること、論文の内容、構成および公表論文数などから、本学位論文審査委員会は、全員一致して、本論文が博士（農学）の学位論文として十分価値があるものと判断し、合格と判定した。